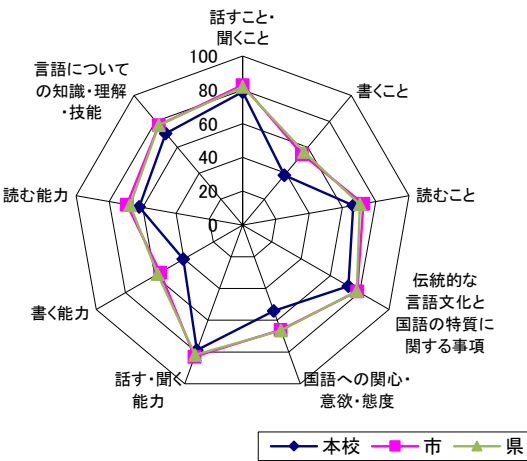


宇都宮市立西小学校 第5学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	話すこと・聞くこと	78.8	82.9	81.8
	書くこと	38.5	54.8	56.5
	読むこと	66.5	72.6	70.5
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	72.3	78.4	78.1
観点	国語への関心・意欲・態度	54.1	66.0	66.4
	話す・聞く能力	78.8	82.9	81.8
	書く能力	40.4	56.3	57.9
	読む能力	62.1	69.5	67.6
	言語についての知識・理解・技能	70.8	77.2	77.1



★指導の工夫と改善

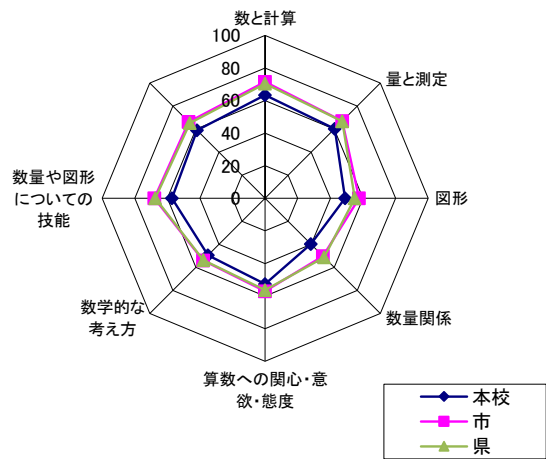
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	平均正答率は、県・市の平均に比べて低い。 ○話し方の工夫に注意して話合いの内容を聞き取ることに限っては、県平均よりも正答率が上回っている。 ●司会の役割として、発言の共通点などをまとめる問いでは、県の正答率よりも下回っており、役割を担ってまとめることには苦手意識をもっている児童が多いことがわかる。	・学級活動や国語の授業での話合いの場面では、司会を立て、目的に応じた話合いを進めていく場を設定し、主体的に話合いに参加できるようにしていく。 ・授業や家庭学習において、音読の学習を取り入れ、話すことや話す言葉の順番などに慣れるように指導する。
書くこと	平均正答率は、県・市の平均に比べて低い。 ●本校の正答率は、38.5%であり、県や市と比較すると、およそ15ポイント程度下回っている。ポスター案の理由を述べる作文の問いに関しては、23.1%の児童が無解答である。また、アンケート調査についての自分の考えを述べる問いについては、およそ30%の児童が無解答である。文章を書くことに抵抗がある児童が多いと思われる。	・日記を書くことを日常的に取り入れ、文章を書くことに慣れ親しむことができるようにする。また、相手に伝わるような表現を意識して取り組めるように指導する。
読むこと	平均正答率は、県・市の平均に比べて低い。 ○登場人物の心情を読み取る問いについては、市や県の平均よりも正答率が上回っている。読書が好きな児童が多いため、人物の心情を読み取ることを得意とする児童が多いと思われる。 ●目的や必要に応じて内容を読み取ることの正答率については、本校は57.7%であり、県よりもわずかに下回っている。 ●説明文の段落のあるまとまりを理解して、文章の内容を的確に読み取ることの正答率は23.1%であり、県の正答率より17ポイント下回っている。	・今後も引き続き、読書に親しむ活動を奨励していく。 ・時や場所、人物の心情などの設定に視点を当てた授業を展開し、目的や必要に応じて読み取る指導をしていく。 ・話題と結論や具体例などが書かれている文章の構造などを意識して、読み進めていくように指導する。 ・段落ごとの短い文章を繰り返し音読することで、文章の内容に対する理解を深めていくように指導する。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	平均正答率は、県・市の平均に比べて低い。 ○言語に関する問題で、連体修飾語や漢字辞典の使い方については、平均を大きく上回っている。 ●漢字の読み書きについては、市や県と比較するとやや下回っている。基礎的な漢字の習得が必要である。	・授業等では漢字の小テストを取り入れ、繰り返しの指導に取り組む。 ・家庭学習でも、漢字ドリルを活用しながら、漢字の反復学習を奨励していく。 ・単元の最初には、新出漢字に関して、ICT教材を活用しながら筆順等にも意識できるような指導をする。

宇都宮市立西小学校 第5学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	63.4	71.5	70.4
	量と測定	60.3	67.0	66.9
	図形	49.0	57.6	55.0
	数量関係	39.7	50.2	51.1
観点	算数への関心・意欲・態度	52.6	57.0	56.3
	数学的な考え方	49.5	53.8	53.6
	数量や図形についての技能	57.2	68.0	67.4
	数量や図形についての知識・理解	59.0	66.3	65.4



★指導の工夫と改善

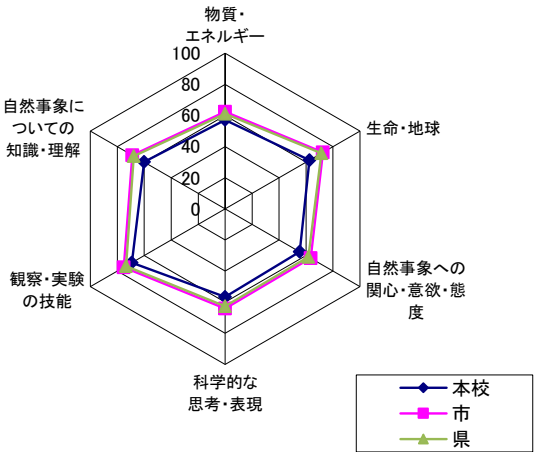
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	平均正答率は、県・市の平均に比べて低い。 ○整数のわり算では、けた数の少ない計算や、わる数が整数の問題については、正答率が高かった。 ●けた数が増えたり、小数点がついたりするわり算の問いについては、抵抗がある児童が多く、正答率が低い。小数のしくみは理解しているようだが、小数を用いた重さの単位換算では、誤答が多い。	・計算ドリルや計算ストレッチ等を活用し、繰り返し取り組ませることにより基本的な計算力の定着を図っていく。 ・新しい単元の初めの授業では、前年度の復習から進めていくようにする。
量と測定	平均正答率は、県・市の平均に比べて低い。 ○分度器の目盛りを読み取る問題では、正答率が69.2%であり、県の正答率よりも上回っている。 ●長方形の面積を求める問いについては、本校の正答率は65.4%であり、県の正答率よりも下回っている。	・授業では、具体的な操作やカードなどを用いて、面積の大きさについて実感できるような指導をしていく。 ・公式を用いて問題を解く学習では、様々な問題に取り組むことで、問題に慣れることができるようにする。
図形	平均正答率は、県・市の平均に比べて低い。 ○直方体の一辺に対して垂直な辺を見つける問いでは、正答率は73.1%であり、県の平均よりも10ポイント近く上回っている。 ●ひし形の作図では、正答率が65.4%であり、県の正答率よりも15ポイントほど下回っている。	・復習プリントやドリル学習などを通して、図形の理解をより確実なものとしていく。 ・作図については、分度器や三角定規などの道具の使い方とともに、多くの作図の問題に取り組めるようにする。また、常に丁寧に正確に作図に取り組むよう、指導する。
数量関係	平均正答率は、県・市の平均に比べて低い。 ○折れ線グラフと棒グラフから数値を読み取り、理由を説明する問いに関しては、本校の正答率は23.1%であり、県の正答率よりも5ポイントほど上回っている。 ●図や表から変わり方を考え、伴って変わる2つの数量の関係を式に表す問いでは、県の正答率よりも21ポイント下回っている。	・計算のきまりや変わり方については、プリントやドリル学習を通して様々なパターンの問題に触れる機会を設ける。 ・理科や社会などの他教科と関連付けながら、表やグラフを正しく読み取る力の育成を図っていく。

宇都宮市立西小学校 第5学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	物質・エネルギー	57.1	62.4	61.1
	生命・地球	62.5	72.5	71.4
観点	自然事象への関心・意欲・態度	55.3	63.4	61.7
	科学的な思考・表現	56.6	64.1	62.6
	観察・実験の技能	69.2	75.2	73.5
	自然事象についての知識・理解	60.2	68.8	67.8



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
物質・エネルギー	平均正答率は、県・市の平均に比べて低い。 ○水を熱したときの温度変化のグラフの読み取りや、水が氷になるときの体積の変化についての正答率は、県よりも上回っており、実験・観察したことがしっかりと身に付いていることが分かる。 ●ビーカー中の水を沸騰させたときの様子についての問題については、正答率が23.1%であり、県の平均よりも大きく下回っている。液体や気体などの区別の理解が不十分であることが分かる。 ●浮き輪やビーチボールに空気を入れすぎない方がよい理由についての問題では、正答率が57.7%であり、県の平均よりも26.4ポイント低かった。学習したことが日常生活と関連してとらえられていないことがうかがえる。	・物の体積と温度の変化では、基礎的・基本的な学習の定着を図るために、プリントでの学習を取り入れる。 ・実験を通して理解を深めていく指導の他に、実験後における振り返り活動も重視し、正しく理解するための時間を確保していく。 ・日常生活の中で日頃から疑問をもったり、学習を通して日常生活と理科が関連していることに気づいたりすることを大切にしながら、学習内容が生きた知識として子どもに身につくよう指導していく。
生命・地球	平均正答率は、県・市の平均に比べて低い。 ○動物の体のつくりと運動の設問では、筋肉の伸縮によって体が動く仕組みについてよく理解している。 ●動物や植物の1年間の様子や成長については、誤答の児童が多く、知識が定着できていないように考えられる。 ●月と星の問題では、全体的に県の正答率よりも下回っている。月の形の名称は理解できているが、方位を考えたり、月の動き方について考えたりする問題では理解が不十分な部分があると考えられる。	・一年を通しての動植物の様子に興味をもてるよう、授業に体験的な活動を取り入れるようにする。 ・幅広い部分から知識を身に付けることができるように、図書室の本やインターネットなどを利用し、月と星についての関心を高めるようにする。 ・学校で月や星座を観察できるときには、機会をとらえ、体験的な活動を取り入れたり、教具と映像教材を活用したりしながら学習の定着を図る。

宇都宮市立西小学校 第5学年 児童質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「学習習慣」に関しての「家で学校の宿題をしている」の肯定的割合は約96%と高いが、「家で学校や塾の決められた宿題のほかに自分で考えた勉強をしている」という肯定的割合が約38%、「家で自分で計画を立てて勉強をしている」についての肯定的割合は約53%で市や県の割合よりも下回っている。この結果から与えられた課題はきちんとやれるが、自主的に意欲をもって学習に取り組む姿勢に課題があることが分かる。今後は、家庭学習への取り組み方法を具体的に示したり、自主的に学習を進めている児童や方法を称賛したりすることを通して、自主学習の充実を図っていきたい。

○毎日、朝食を食べていることや睡眠時間についての肯定的割合は、市や県の数値と同程度である。この結果から、基本的な生活習慣が身に付いていることがわかる。今後も、保健の学習等を活用しながら、健康的な生活について考えていけるよう、取り組んでいきたい。

○「学校での役割や係の仕事に責任をもって取り組んでいる」の回答については、肯定的割合が100%であり、市や県の割合よりも大きく上回っている。この結果から、みんなのために働くことを楽しいと感じながら、学校生活を送っていることが分かる。今後も、みんなが気持ちよく生活できるよう、周りのために働く良さを実感できる活動を増やしていきたい。

○「家の人と学校でのできごとについて話している」の肯定的割合は、88%であり、市や県の肯定的割合よりも上回っている。この結果から、学校での出来事を積極的に話し、家庭での良いコミュニケーションが図れていることが分かる。

○「先生は学習のことについてほめてくれる」「家の人はあなたがほめてもらいたいことをほめてくれる」の質問に対する肯定割合が高い。本校がすすめる「ほめて伸ばす」教育のあらわれであると考ええる。また、「自分は家族の大切な一員だと思う」の回答では、肯定的割合が96.1%であり、市や県の平均を上回っている。家庭の中での自分の存在感や役割などを実感していると考えられ、自己肯定感の高まりが見られる。さらに自分自身のよさに気付けるよう指導の充実を図りたい。

●「疑問や不思議に思うことは、分かるまで調べたい」の回答については、肯定的割合が38.5%、また、「むずかしい問題にであうと、よりやる気が出る」の回答については、肯定的割合が26.9%と、市や県の平均を大きく下回っている。学習へのさらなる探求心や、自分自身の学習課題の克服について、それぞれの意識が低くなっていることがうかがえる。基礎基本の定着とともに、学習することで「わかる」ことの喜びや、根気強く学習へ取り組む姿勢が身に付けられるよう、学習方法や評価を工夫しながら、学習活動に取り組んでいきたい。

宇都宮市立西小学校（第4・5学年共通）
学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
基礎基本の確実な定着	算数の授業においては、3年生以上の学年でTTや少人数指導による習熟度別学習を取り入れ、学級の実態や個に応じた指導を行っている。漢字の読み書きについては、単元ごとの漢字ミニテストの実施、計算におけるスピードと正確性の向上については、朝の計算ストレッチを定期的に行っている。 また、自分自身の課題意識をもって学習したり、学習習慣を身に付けたりしていくようにするため、繰り返し実践できる漢字ドリル、計算ドリルを活用している。	「授業を集中して受けている」の質問では、4年生の肯定的回答割合が90.9%、5年生で88.5%であった。一方で、「むずかしい問題にであうと、よりやる気が出る」の回答については、4年生の肯定的割合が57.6%、5年生が26.9%と、市や県の平均を大きく下回っている。授業はしっかり受けているが、自分の苦手分野の克服や、その前提となる基礎的な学習内容の定着について課題があると考えられる。
話し合い活動の充実	相手の話に傾聴し、自分の考えと比較しながら意見を聞いたり、自分の考えに根拠を添えながら筋道を立てて伝えたりと、お互いにわかりやすく伝えあう時間を確保している。ペアやグループでの話し合いなど、教科や単元に合わせて学習形態を工夫し、少人数の話し合いから全体の学びあいへと広めていけるよう努めている。	「話すこと・聞くこと」については、4年生、5年生ともに県・市の平均と同等であった。話を集中して聞くことができ、また内容についてもよく聞き取っている。学校生活での様々な場において、話し合いの場を設けてきた成果と思われる。一方で、「グループなどでの話し合いに自分から進んで参加している」の質問では、4年生の肯定的回答割合が63.7%、5年生が53.9%と市・県の平均を大きく下回っている。話し合い活動はできているが、自分から進んで参加しようとする積極性について、今後さらに伸ばしていきたい。
めあて・課題・まとめ・振り返りを意識した授業の展開と、授業規律の構築	授業では、めあての確認、課題の把握、終末では学んだことのまとめと振り返りを行うことで、分かったことを明確にしたり、次への課題をもったりする習慣が身に付くようにしている。また、「西小よい子の学習の約束」を活用し、学習準備、姿勢、話の聞き方・話し方、ノートを取り方等と具体的に示しながら、継続して指導している。特にノート作りについては、参考になるノートを校内で展示し、児童の学習意欲を高めている。	「授業で扱うノートには、学習の目標とまとめを書いている」の質問については、4年生で84.8%と県・市の平均を上回っているが、5年生は73.1%と、平均には届いてなく、今後も指導が必要である。また、「授業の最後に学習したことをふり返る活動をよく行っている」の質問では、市の平均よりも、4年生では約6ポイント、5年生では約40ポイント下回った。授業の流れを可視化して意識させるなどの改善図るとともに、学習して分かったことや、学習過程の中の気付きについて、自分の言葉で書いたり、友だちと意見を交流したりしながら、意識的にふり返りをさせていく必要がある。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
基礎基本の確実な習得のための、学習習慣の確立	一人一人の状況に合わせた、繰り返し学習の徹底と支援	児童一人一人の学習状況に合わせて、TTや習熟度別学習、個に応じた支援を行い、漢字の読み書き、音読、計算などの基礎的な学習内容の定着が図れるようにする。また、既習内容の理解度を確認した上で、新しい単元に入るようにし、見通しをもって授業に臨めるようにしていく。
学習に関心をもち、最後まであきらめずに取り組む姿勢の育成	学習指導の工夫	自分の苦手分野の内容や難しい問題に出合ったときは、できる問題から取り組んだり、途中まで解いてみたり、見方を変えて考えたりするなど、根気強く取り組めるようにしていく。そのためにも、基礎基本の定着を図りながら、様々な分野の学習に興味関心を高め、「わかる」ことの楽しさが実感できるような授業の展開を工夫していく。